【実施区域・面積】

神奈川県秦野市、2.32ha

【生態系タイプ】

里山林、二次草原・草地、水田、畑・果樹園・牧草地、高層湿原・中間湿原・湧水湿地

【実施区域の状況】

秦野市生き物の里は「希少な又は貴重な野生の生き物が生育し、又は生息している水辺地等を保護」されている場である。この区域は市内７箇所に点在しているが、共通して里地里山の谷戸田、豊富な湧水、希少生物が生息している生物多様性保全上重要な場所である。





【目標】

生物多様性に配慮した管理、小学校（柳川・千村・渋沢）の環境教育の場としての活用、地域最後の田んぼとして耕作などを通して、市民とともに自然環境の保全活動をすることにより、生物多様性への関心と気づきを促し、持続可能な自然保護と生物多様性の向上を目的とする。

【主な活動内容】

草刈り・水路管理等による環境整備
春から秋にかけて、随時、はだのエコスクールや上地区いなか暮らし体験の環境教育の場としての使用。地元こども園の田植え及び稲刈り体験などにも活用。

【モニタリング計画】

市調査員により、水田生物、雑木林を動植物の生息を調査。
ＮＰＯ法人野生動物救護の会により動物を赤外線カメラによる定点調査や東京農業大学のゼミナールによる調査地としてモニタリングする。

【実施体制】

各生き物の里に管理運営協議会を設置し、市と連携して管理を行っている。
各管理運営協議会は日常的な点検や定期的な草刈り、はだのエコスクールや上地区いなか暮らし体験への協力を行っている。

【計画期間】

令和７年９月～令和１２年８月